

運送業界の健康支援を生きがいに

135 事故惹起者はやはり重症SAS

■最近のSAS事情

今年は軽井沢でのスキーバスによる事故など、年初から大事故が続出したことなどもあり、睡眠時無呼吸症候群(SAS)への関心が業種を問わず高まっています。

特に、「うちにはSASはいないよ」「見つかったら、どうしていいかわからないから検査はしないよ」など、SASスクリーニング検査を明らかに敬遠していたと思われる事業者さまが、検査をスタートされているのが特徴的です。また、「トラック協会の助成があるから検査をする」というスタンスから、自社で検査費用を全額負担しても検査を行うという事業者も増えてきました。

■血中酸素濃度の低下に絶句

8月に、あるトラック事業者様から、予定していた人数の中から「1人だけ至急検査したい」との依頼がありました。事情を聞いてみると事故惹起者であるとのことでしたので、早速パルスオキシメータで検査されると、案の定、重症を示すD+（医師判定）であることが判明しました。しかも印象的だったのが、パルスオキシメータのデータ処理をしていたOCHISスタッフが、その血中酸素濃度低下と心拍数上昇を見るなり、「これは！」と絶句したことです。

つまり半端な重症度ではなく、「運転中に意識がなくなるほどの眠気を呈する」、つまり、ほとんど毎日、「窒息状態」と

容易に想像できる状況をデータが示していました。

■居眠り事故の究明は踏み込んで

また、一般ドライバーの死亡事故で、最近気になったのが、四国の元市長(75歳)の「居眠り運転の可能性」と掲載されたニュースです。ある報道では意識を失ったように、「という表現がなされていて、75歳という年齢、さらに公開された写真(首が太く短い)を見て、「ひょっとしてSASでは？」と推察しました。もちろん無責任な断定はご法度ですね。だからこそ、「心身疲労」などとあまりにも一般的な曖昧な表現ではなく、ぜひSASを疑って踏み込んだ検査をされることを切望します。なぜならば、事故原因の究明は真実を深掘しない限り、決して次の事故防止対策には生かされないからです。

さて、年度の後半に差し掛かってきました。OCHISの「パルちゃん検査のお申し込みはぜひお早めに。」

(次回は10月号に掲載)



《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)
副理事長 作本 貞子
「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
TEL : 06-6965-3666
FAX : 06-6965-5261
東京オフィス TEL : 03-3295-1271
E-mail sakumoto@ochis-net.com
HP <http://sas.ochis-net.jp/>